

公益財団法人勤労者福祉ネットワーク2025年度事業計画書

(2025年3月17日第46会理事会承認／2025年6月23日第13回評議員会承認)

はじめに

2025年の今年は、戦後80年の節目の年に当たります。明治維新から終戦までの80年間は、「侵略と戦争」の歴史でした。その反省に立って始まった戦後80年は、平和憲法に基づく「基本的人権・民主主義・平和」の理念を掲げた時代でした。80年が経過した今、私たちは新たな歴史の岐路に立たされています。

また、2025年は国際連合が定めた第2回国際協同組合年にあたります（第1回は2012年）。私たちは改めて世界の人々と連帯し、被爆から80年を迎える節目に、日本被団協のノーベル平和賞受賞を機に「核なき世界平和」の実現を目指し、すべての国が核兵器禁止条約に加盟することを求めています。

一方で、コロナ禍による経済の疲弊に加え、米をはじめとする生活必需品の高騰が続き、勤労者の賃金は追いついていません。団塊の世代が後期高齢者となることで、医療・介護・社会保障などの分野でさまざまな課題の発生が予想されています。また、少子化による労働力人口の減少や格差の拡大に歯止めがかからず、日本の相対的貧困率はG7の中でアメリカに次ぐ2位となっています。

このような時代だからこそ、私たちは徳島が生んだ世界的偉人である賀川豊彦の精神に学び、財団の理念である「人々の連帯を軸とした共助・共生の福祉社会」の実現に向けて、決意を新たに歩んでいきます。

私たち財団は、山積する社会課題や変化する社会状況に対し、柔軟な発想で挑戦し、この度策定した「中期ビジョン2030」を道標に、10年後も地域社会から必要とされる存在であり続けることを目指します。スタッフ一同で知恵を出し合い、事業の展開に取り組んでまいります。

【2025年度重点課題】

- (1) 「子育て」「育ち」の新たな支援として、①全中学校での『赤ちゃん授業』の実施、②絵本こども図書室（車）の設置、③学童保育の公設民営による拡充に取り組む。
- (2) 『アップデート基本構想』の具体化を進め、あわ～ず会員2万人の早期達成をはかる。
- (3) マリッサとくしま発足10周年、ハートフルゆめ基金設立10周年、くーぼん丸。開始20周年の記念事業を実施し、事業の更なる拡充をめざす。
- (4) 外国人と共に多文化共生の徳島へ向けた交流拠点として『つながりカフェ』を開設する。
- (5) 我が郷土が育んだ、世界の三大聖人の一人であり、4回のノーベル平和賞候補者である“協同組合の父”賀川豊彦の『友愛・互助・平和』の精神に基づき、関係団体の皆さんと共に、戦後（被爆）80年並びに国際協同組合年の記念事業に取り組む。

1. 機関会議の開催

INETWORK 総務部

当財団の事業が、県民の労働者福祉に寄与できるよう、そのことを職員ひとり一人が共有し認識したうえで事業に取り組むため下記を基本に機関会議などを開催します。

(1) 評議員会の開催

第13回評議員会の開催

と き：2025年6月23日（月）

14:00～開催予定

※第4号議案で提案

ところ：徳島市内

議 題：①2024年度貸借対照表、損益計算書、貸借対照表及び損益計算書付属明細、財産目録承認の件（2024年度事業報告並びに事業報告の付属明細含む）/②その他

(2) 理事会の開催

5月理事会の開催（事業報告・決算）

と き：2025年5月～6月 開催予定

ところ：労館502会議室（予定）

議 題：①2024年度事業報告（案）承認の件/②2024年度事業決算（案）及び監査報告承認の件/③役員・評議員選任の件/④第13回評議員会招集の件/⑤その他

9月理事会の開催（上期事業報告・補正予算）

と き：2025年9月 開催予定

ところ：労館502会議室（予定）

議 題：①2025年度上期事業進捗状況並びに下期重点課題の取り組み承認の件/②2025年度補正予算承認の件

(3) 常勤理事会の開催（常勤理事）

と き：随時常勤理事が互いに招集

ところ：財団役員室

議 題：財団運営に係る全ての課題を協議

(4) 常勤役員会の開催（部長以上）

と き：毎月第1火曜日 午前10時より

ところ：財団小会議室

議 題：財団の組織運営に係る課題を協議

(5) 事業委員会の開催（常勤役員・所長ほか）

と き：毎月第3火曜日10時30分より

ところ：労館502会議室（予定）

議 題：各事業部報告と予定・新たな企画提案/財団事業に係る諸課題を協議

(6) スタッフ全員会議（全職員）

と き：1・4・8月の年3回開催（原則）

ところ：その都度決定

議 題：財団方針の共有と連携

(7) 衛生委員会（衛生委員）

と き：毎月第3月曜開催

ところ：財団会議室

議 題：各事業部の衛生管理に関する定例報告健康診断やストレスチェックの計画、実施など

(8) 職員互助会（互助会各セクション代表）

と き：議事発生の際会長が招集

※不定期

ところ：財団会議室

議 題：職員の福利厚生などに関する諸課題

(9) コンプライアンス委員会（コンプライアンス委員）

と き：年1～2回 ※不定期

ところ：財団会議室

議 題：職員研修の企画立案、相談窓口業務の推進などコンプライアンスに関連する事案の検討



2. 財団のガバナンス強化推進と中期ビジョン2030の策定

2022年度より、職員100名体制、事業規模5億円を超える財団として、**ガバナンス強化推進**を掲げ、総務セクションのさらなる強化を軸に、次の10年を見据えた持続可能な組織運営の体制づくりに取り組みました。

2023年度には、理事会および評議員会での協議・承認を経て、執行役員の新任、業務管理・会計システムの見直し、**コンプライアンス委員会の設置、コンプライアンス相談窓口・内部通報制度相談窓口の開設、ガバナンス強化に伴う規程の見直し・新設**などに取り組みました。これらの取り組みにより、同年10月から**新たな仕組みと体制がスタート**しました。

2024年度は、2023年10月に施行された規程をベースに、常勤理事会、常勤役員会、コンプライアンス委員会での協議を重ね、**コンプライアンス・ハラスメントに関する相談窓口の開設、周知、広報・啓発**に取り組みました。

さらに、2024年10月には「財団中期ビジョン2030策定委員会」を立ち上げ、今後のさらなる拡大を見据えた**5年後の「あるべき姿」**を展望し、ガバナンス強化を基盤とした「NW中期ビジョン2030」を策定（本日答申）しました。

2025年度は、この中期ビジョン2030に基づき、各種取り組みを推進していきます。

3. 2030年へ向けた人材育成

（1）財団事業企画コンペの実施

職員がアイデアを出し合い、自ら企画立案～実施までを担うことで、財団職員の個人のスキルアップにつながるとし、2018年より毎年「**企画コンペ**」を実施しています。

2024年度も1月に実施し、**最優秀賞×1組、優秀賞×3組、特別賞×2組**を選びました。企画の実現に向け、職員が中心となって取り組みます。

（2）賀川豊彦学校への参画

2025年度も認定NPO法人賀川豊彦記念・鳴門友愛会（理事長：久積育郎）による「賀川豊彦学校」（第4期）が開校します。企画段階から財団も協力しており、今期も財団から各部署から職員が登録し、賀川豊彦の顕彰、継承に向けた人材育成に取り組みます。

（3）各種スキルアップへの支援制度

引き続き、四国大学、労福協、とくしま社会運動資料センター、ポリテクセンター、賀川豊彦記念・鳴門友愛会など、**関係団体や専門団体が開催する研修会などを積極的に活用**するとともに、**日常業務のスキルアップにつながるセミナーなどへの参加に対し支援**を行います。

（4）防災士の養成

南海トラフ大地震への対応は待ったなし。労働者福祉に携わる職員として**業務中の被災も想定し、一人でも多くの命を守る**ことにつなげることを目的に、**職員全員の「防災士」資格取得**に取り組んでいますが、2025年度は、財団内で「**防災士の会（仮）**」を組織し、災害時における具体的な行動指針の検討などを行います。

(5) 新人研修の実施

2025 年度も賀川豊彦記念館で新人研修を行います。大きなテーマを「賀川豊彦の精神を継承しながら、変化する時代の流れの中で、その時代に即した受益者とニーズを即座に判断し、的確なサービスを創造していく使命の確認」とし、賀川豊彦記念館での研修並びに労働者福祉の歴史と役割、また財団の中期ビジョン 2030 などについて、研修を行う予定です。

(6) スタッフ全員会議の実施

財団では、4 月・8 月・1 月の年 3 回、財団役職員全員が参加できる「スタッフ全員会議」を開催しています。2025 年度、4 月の全員会議は、今回策定する「財団中期ビジョン 2030」の共有をテーマとし、テーマに沿った基調講演を計画しています。また、8 月の全員会議は、昨年からスタートした「フィールドワーク付きテーマ別研修会」を引き続き実施し、少人数でのフィールドワークで職員同士の良好な関係づくりにも繋げたいと考えています。2026 年 1 月には、役職員と日頃業務上親交のある関係団体・個人との交流会を予定しています。

公益財団法人徳島県労働者福祉ネットワーク

All staff meeting August 2024 スタッフ全員会議 **研修会**

3つのテーマと選べる 6つの Group!

～ 社会課題に挑む！座学とフィールドワーク～

定員 各 Group 15 名程度

人も物も活かされる街づくり
共生社会へ
NPO 法人太陽と緑の会

Group 1 8月19日[月] 14:00～16:00
Group 2 8月30日[金] 14:00～16:00

コウノトリが舞う笑顔輝く未来に
環境保護 1
認定 NPO 法人とくしまコウノトリ基金

Group 3 10月16日[水] 13:00～16:00
Group 4 10月25日[金] 13:00～16:00

再発見!! 吉野川河口
環境保護 2
とくしま自然観察の会

Group 5 8月28日[水] 10:00～12:00
Group 6 9月6日[金] 13:00～15:00

NETWORK



20240920 (延期)「太陽と緑の会」



20240906「とくしま自然観察の会」



20241016「とくしまコウノトリ基金」



4. 多文化共生社会の実現

(1) 多国籍交流の場



ライフサポート部

2024年度の5つの重点課題のひとつである「外国人が日本一活躍する“共生社会の徳島創造”へ向けたユニバーサルカフェ『つながり』の事業拡大をめざします。

「つながり多文化交流室」として、新たに設置された「運営委員会」(2025年2月12日発足)で交流会の開催や、外国人による goods の製造・販売、拠点の開設などについて事業の方向性を協議、特に多文化交流拠点「つながりカフェ」の2025年度中の開設を決定し、準備を進めています。また、昨年スタートした『ユニバーサルカフェ(つながり)外国人相談室』では、子育てや就労など、身近な暮らしのサポートを、専門機関と連携しながら、取り組んでいます。

(2) モンゴル国との交流

NETWORK 総務部

2018年6月から始まった財団とモンゴル国の交流、2019年7月にはモンゴル国のゾリグ財団と私たち徳島県勤労者福祉ネットワークとの間で、友好交流協定の締結が実現しました。その後、新型コロナウイルスの台頭により、中止、延期を余儀なくされましたが、2022年8月には交流を再開し、国際友好交流の基礎となる話し合いを行うことを目的に第3次訪モンゴル団を、2023年9月には交流を具体化するために第4次訪モンゴル団を派遣し、その結果をもとに同年10月～11月2週間の短期ですが、ゾリグ財団からプログラムコーディネーターを研修生として招きました。2024年6月29日～7月3日の間、第5次モンゴル国訪問交流団がゾリグ財団を訪れ、お互いの財団の事業などについて理解を深めました。

2025年度は、「つながりカフェ」で扱う、フェアトレード商品の検討などを主なテーマに、第6次モンゴル国訪問団が訪れる予定(7月12日～16日)です。

5. DX(デジタルトランスフォーメーション)に向けた取り組み

NETWORK 総務部

DXについては、業務の効率化、ペーパーレス化への取り組みのひとつとして、FAXの共有サーバへの保存や、ローカルサーバ及びクラウドサーバによる情報共有、zoom会議システムの導入など、これまで人材育成とセットで取り組んでまいりました。

また、主な事業では、子育てサポートのオンライン化(「あうん・じょ」)、マリッサとくしまでのオンライン申し込みの実現、「くーぽん丸。」のアプリ化、そして、2025年度、あわ～ず徳島の電子会員証、アプリ化へ向けた具体的な取り組みを進めます。会員のIT格差に配慮しながら、誰一人として取り残さない段階的なDXの実現に取り組めます。

7. 「平和なくして福祉なし」…平和への取り組み

NETWORK 総務部

2022年2月、ロシアによるウクライナ侵攻と時を同じくして、当財団を含む県内の11団体とともに「ヒロシマ被爆アオギリⅡ世平和祈念植樹写真展徳島実行委員会」を立ち上げ、写真集の企画、編集、出版、配布などを通じて「平和をテーマ」にした活動に取り組み、一定の成果をあげました。2023年末、実行委員会は一定の役割を終えたとし、「ヒロシマ被

爆アオギリⅡ世平和祈念植樹徳島連絡会」に改組（事務局は当財団）しました。
2025 年 1 月には、第 1 回連絡会を開催し、

戦後・被爆 80 年の節目の年にあたり、

- ① 日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准と第 3 回締約国会議への参加を強く求める。
- ② 三好市・小松島市議会での核兵器禁止条約批准を求める決議採択を目指す。
- ③ 核兵器をなくす国際市民フォーラム参加と第 3 回締約国会議へ県民代表を派遣する。
- ④ 平和祈念植樹や写真パネル展を開催し、「徳島県平和の日」県条例制定を目指す。
- ⑤ 日本被団協代表を講師に招き、核兵器禁止条約に関する講演会を開催する。

の 5 つについて確認しました。

現在、①については活動を継続中。②については概ね目処が立っています。③については 2 月 8 日、9 日東京で行われた国際市民フォーラムへ有志での参加が実現したものの、ニューヨークでの締約国会議への県民代表派遣は、実現に至りませんでした。④については、当財団が、平和をめざす団体・個人で構成された「とくしまピースネット 80」の呼びかけ団体のひとつとして、7 月 4 日の「徳島県平和の日」条例制定、「徳島大空襲資料館（仮称）の整備」などの実現に向け取り組みます。⑤に関しては、戦後 80 年の今後の連絡会の活動の中で取り組みを進めます。

その他「ヒロシマ被爆アオギリⅡ世平和祈念植樹徳島連絡会」の取り組み

- ① ヒロシマ被爆アオギリⅡ世の平和祈念植樹の募集
※ 2025 年 1 月、阿南市那賀川町で新たに平和祈念植樹
- ② ヒロシマ被爆アオギリⅡ世の平和祈念植樹パネル展の実施

- ③ その他



とくしまピースネット 80 のロゴマーク



2025 年 1 月 22 日 阿南市那賀川町黒地文化センターで平和祈念植樹

I. 中小企業サポート（公益目的事業）



あわ～ず徳島（徳島勤労者福祉サービスセンター）



中小企業サポート部

（１）加入事業所・会員数の増加に向けて

『あわ～ず徳島アップデート基本構想』で、2026 年度末での会員 2 万人達成を目標としていましたが、コロナ禍後に回復するかと思われた景気は、円安・物価高騰の影響に加え、インボイス制度、電子帳簿保存法の開始等で中小企業の事務担当者は多忙を極め、あわ～ず徳島の加入促進は困難を極めています。

昨今の人手不足があわ～ず徳島の需要を喚起するかと思いましたが、徳島ショックと称された、最低賃金の大幅改正は、中小企業の経営にとっては逆風となり、あわ～ずの会員拡大にとっても状況は悪化し、「2026 年末までに会員 2 万人達成」の目標は大きく下方修正を余儀なくされました。

この理事会で答申された「徳島県勤労者福祉ネットワーク中期ビジョン2030」の中で、「2030 年までに会員 2 万人達成」を新たな目標として掲げ、地域に密着したサービスの提供と時代の変化に対応した新たなサービスの開発を継続します。

2025 年度は、加入促進の方法の見直しを本格化させるとともに、サービスのデジタル化、スマホアプリのソフト開発、SNS やホームページの活用による広報体制の強化で加入促進に努めます。

（２）完全自立化に向けた会議・連絡会の開催

①『自立化対策会議』の継続開催

2022 年度にスタートした『自立化対策会議』を引き続き開催し、2030 年での完全自立化（会員 2 万人達成）に向け、公・労・使の財団構成団体の委員で協議を重ねてまいります。

②『市町村連絡会』を通じた全 24 市町村との連携強化

地域経済の活性化に寄与する取り組みを推進するため、『市町村連絡会』を引き続き開催します。人口減少が深刻な社会課題となっており、各市町村ともそれぞれ、人口流出を食い止め、少しでも転入を促し、そこでの就職、結婚と定住、出産と正のサイクルを回していかうと、危機感を持ち取り組みを行なっています。連絡会では、各市町村の取り組みを共有し、市町村の取り組みがより深化、拡充するよう、あわ～ず徳島やネットワーク仕組みを使った解決の糸口を検討します。

（３）新たなサービスの検討

① あわ～ず徳島で 2024 年度からスタートした、「子育て応援」制度における会員の職場復帰時のプレゼント企画を検討します。現在は商品券をプレゼントしていますが、今後、子育て関連商品を扱う会員事業所の商品をカタログ化し、選択制で提供できる仕組みを検討します。会員間のつながりを促進し、地域内経済の循環にも貢献できると考えます。

② あわ～ず徳島プラスワンとして、すでにスタートしているワンコイン労災に加え、経営者にスポットを当てたサービスの開発を検討します。また、昨年度はサービス内容を検討した結果、見送りましたが、全国で使えるサービス（リロクラブ）の導入も、他県に支社、

営業所がある事業所などに向けた新たなサービスとして、引き続き検討します。



全福ネットあんしん労災（全福ワンコイン労災）

事業主の**経営リスクを軽減**し、従業員の**福利厚生**の充実を図る

国の労災保険に上乗せする共済です！

「全福ネットあんしん労災」は、（一社）全国中小企業勤労者福祉サービスセンター（全福センター）加盟のサービスセンターの会員企業※の従業員が、業務上または通勤途上の災害で亡くなられたり、身体の障害（後遺障害）を被った場合、国の労災保険の給付に上乗せする団体型の労働災害共済です。



全福ネットあんしん労災
ホームページへ

掛金は1口
100円/月から
従業員1人

補償は最高
3,000万
まで選択可能

**会員
事業所
限定**

（４）地域連携・地域貢献事業の推進

- ① JA グループとの連携企画「ちよっとええもん JA 編」の継続実施
- ② とくしま自然観察の会との連携で、シオマネキ自然観察の会との連携による干潟観察会の開催（子ども対象）
- ③ とくしま自然観察の会との連携で、自然保護活動への会員参加促進（干潟清掃やラムサール条約干潟登録へ向けた活動）
- ③ とくしまコウノトリ基金との連携事業として、レンコン掘り体験の実施
- ④ フードバンクとくしまとの連携で、フードバンク支援を組み込んだイベントの実施



しあわせ

幸福の青いカニ



9/10

吉野川河口住吉干潟での
シオマネキ観察会に参加

干潟の観察会への参加や 清掃活動などにご協力を

あわっきい（シオマネキ）は、吉野川河口付近に実際に生息する希少（2006年に絶滅危惧Ⅱ類）なカニの仲間です。
シオマネキは吉野川河口の葦（ヨシ）の生えている干潟で生まれ、生後6ヶ月頃まで体がとても綺麗な青色をしています。だんだん大人になると青色は消え、オスは片方だけハサミが大きくなり赤くなります。
この葦（ヨシ）の干潟が無いと、シオマネキは生きていけないため、私たちはこのシオマネキの保護（干潟の保護）に取り組んでいる「とくしま自然観察の会」（世話人代表 井口利枝子さん）の活動に賛同し保護活動への協力を始めます。
あわ〜ず徳島の「あわっきい」は若い従業員の象徴。会員の皆様の会社や団体が、ずっとずっと続いていくよう、若い世代を守り育てていくことができれば・・・あわっきい＝「幸福（しあわせ）の青いカニ」として、会員の皆様の笑顔のシンボルとして、これからも皆様と一緒に守っていききたいと思います。



干潟に生息する青カニ



観察会のようす



活動によって美しい
干潟が守られています

とくしま自然観察の会 HP へ
観察会の案内や海苔ふきのメン
バー登録などコチラから



（５）会員サービスのデジタル化の取り組み

全会員が平等にサービスを受けられるよう配慮しながら、時代の流れに遅れないよう、一歩ずつサービスのデジタル化を進めてまいります。

① ホームページの拡充

昨年 リニューアルしたあわ〜ずのホームページ。会員の声を聴きながら、さらに使いやすいホームページをめざします。

② 電子申請への移行

昨年より、電子申請が可能な部分（健康診断、宿泊、インフルエンザワクチン、スキルアップ、マラソンの補助金など）は、これまで郵送やファックスでの申請だったものが、会員

からあわ〜ず徳島の事務局までは、電子メールやデジタルフォームでの受付が可能になりました。2025 年度には**会員システム側で直接処理できるような仕組みがリリース**されますが、**高額なサービス**となるため、導入については検討します。

③ SNS の活用

2023 年末、LINE と TikTok でスタートした SNS ですが、現在は Instagram、YouTube でのショート動画の配信を行なっています。これまで、**ショート動画の更新やイベント告知の発信**は、LINE 会員（3月3日現在 744 人）を通じてのみ可能でしたが、現在開発検討中の**アプリ化が実現すれば、一気にほとんどの会員に通知が届く**ようになります。

④ サービスのスマホアプリ化へ向けた経緯と今後

2024 年度より、あわ〜ず徳島のサービスのアプリ化を展望し、様々な方法を模索しました。かねてより検討してきた**全福センター推奨の「電子会員証」**は、アプリ化までの道のりは遠く、**今だに、web ブラウザを利用した「電子会員証」**で、レスポンスや信頼性に欠け、サービス低下への懸念から、やむなく断念。**既存のシステム（キントーン）活用によるアプリ化も検討**しましたが、**開発費、ランニングコストが高額**になるため現実的ではなくこちらも断念。そんな中、デジタル申請システムの先進県である長崎県の IT コンサルの紹介で、**島根県の IT 企業とともに勉強会を実施**。今後、**共同開発という形で、実現可能なアプリ開発が視野に入ってきました**。現在使用中の会員管理システムとの連動（ユニテック）、共済の決済の仕組み（全労済協会）など、複雑な連携、連動が必要となるといった課題はありますが、今後、勉強会で協議を重ねながら、**2025 年度中のアプリ化実現**へ向け取り組んでまいります。



イメージ

(6) 「とくとく券」のサービス充実

2025 年度は、日帰りバスツアーとして、これまでの大阪、京都、奈良、兵庫、高知、岡山に加え、**新たに愛媛**が加わります。また、「とくとく券」特別企画の日帰りバスツアーとして、バス 2 台体制で「**神戸須磨シーワールドツアー**」を計画しています。

(7) 会員向けセミナー・交流交流イベントの開催

2025年度も、毎年好評な「新入職員ビジネスマナー研修」、「観光地引き網体験と海岸クリーンアップ」、「事業所対抗ソフトバレーボール大会」の開催、昨年度よりスタートした「Life Ending Support Seminar（終活セミナー）」、「あわ～ず徳島ゲーム大会（eスポーツ大会）」の実施に向け準備を進めています。「Life Ending Support Seminar（終活セミナー）」と「あわ～ず徳島ゲーム大会（eスポーツ大会）」ともに、初めての開催ということもあり、課題を残した結果となりましたが、ともに、会員の関心が高く、今後もブラッシュアップしながら継続していきます。

また、事業主、事業所事務担当者、会員（従業員）それぞれに対する「会費還元感謝交流ツアー（仮称）」を検討しています。

① 新入職員ビジネスマナー研修（徳島・阿南の2会場開催）

阿南会場

と き：4月17日（木）14：00～16：00

ところ：阿南ひまわり会館 2F

徳島会場

と き：4月24日（木）14：00～16：00

ところ：アスティとくしま 2F 第5会議室

② 会費還元感謝交流ツアー（仮称）

GW 明け～夏ころ

③ 地引き網体験&海岸クリーンアップ

夏予定

④ ソフトバレーボール大会

秋ごろを予定

⑤ Life Ending Support Seminar（終活セミナー）

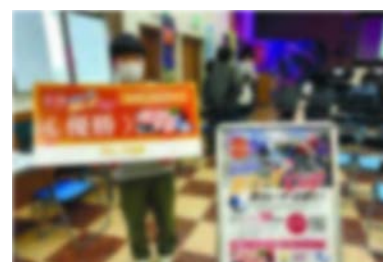
秋ごろを予定

⑥ あわ～ず徳島ゲーム大会（e-sports）

2026 年初旬を予定



2024.10.2「終活セミナー」



2025.1.19「ゲーム大会」

(8) 全福センター（全国中小企業勤労者福祉サービスセンター）、中・四国内サービスセンターとの連携

全福センター中・四国ブロック協議会主催の「運営委員会」、「事務担当者研修」に参加し、中・四国のセンター間の連携（e-スポーツ大会の共同開催など）、情報交換（電子申請）などに努めます。また、「事務担当者研修」では、会員管理業務や慶弔共済業務の研修に努め、日々の業務に活かします。

(9) 中小企業退職金共済制度・小規模企業共済制度の普及・推進活動

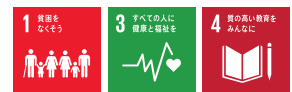
委託事業主団体として、普及・推進に当たり、2024 年度も新規共済契約、追加加入手続きに努めます。

Ⅱ. 子育てサポート（公益目的事業）

こども家庭庁が創設され2年が経過し、ようやく「こどもまんなか社会」という言葉が浸透してきました。

子どもの利益、子どもの幸せを念頭に子育てサポート部として「すべての子どもの笑顔のために」4つの目標を掲げ取り組めます。

- 1 あいあいファミサポフェスティバル「こどものまち」あすたむらんど徳島と共催でお仕事体験を開催予定
- 2 赤ちゃん授業を全自治体中学校で！
- 3 放課後児童クラブでの公設民営の実現
- 4 こども図書室（車）の検討



1. ファミリー・サポート・センター事業

徳島の地にファミサポが生まれて25年が経ちました。25年前とは子育て環境が大きく変わり、ファミサポに求められているものも変化してきました。柔軟に対応し、すべての子育て世帯を応援することのできる存在として役割を担っていきます。

- **徳島ファミリー・サポート・センター**（徳島市・小松島市・勝浦町・上勝町・石井町・神山町・佐那河内村）
 昨年1月より始まった利用補助により、活動件数が今までの2～3倍になりました。
 しかしながら、実働している提供会員の数はそれに追いついていない現状です。2025年度も今年度に引き続き、会員増加に向けて広報などの工夫をして行きたいと思います。
 ファミサポの使いやすさが向上した分、急な依頼や難しい内容への対応で負担感が増してきています。より良い支援が提供できるように、研修会や情報交換の場（ハピサポ茶話会）を増やして、悩みや課題を共有していきたいと思います。
- **板野東部ファミリー・サポート・センター**（藍住町・北島町・松茂町・板野町・上板町）
 依頼会員への補助金はまだ支給されていませんが、依頼会員登録は増加傾向にあります。
 新たに登録された方からは「提供会員と出会い、助けてもらってよかった」という声をいただいています。また、継続的にサービスを利用する依頼会員も増えていきます。引き続き依頼会員が500円/時間で利用できるよう、行政に補助金支給を働きかけてまいります。
 実働提供会員の不足状態は続いています。広報活動と会員間の交流会などを通じて獲得を目指します。また、交流会などを通じてファミリー・サポート活動がスムーズに行えるよう、会員間の連携を強化したいと考えています。
- **阿南ファミリー・サポート・センター**（阿南市）
 今年度10月から利用補助が開始となり、提供会員のモチベーションアップには繋がったと思いますが、会員数の拡大も利用者の拡大も微弱な右肩上がりでもまだまだ周知されていないのが現状です。依頼会員のニーズに対応するためには、丁寧な聞き取りとあらゆる想定や可能性を考え、提供会員が安心してサポートが行えるように寄り添っていききたいと考えています。

● **鳴門ファミリー・サポート・センター（鳴門市）**

昨年度 10 月から利用補助が開始、今年度 10 月から初回利用に限り 2 時間無料でサポートが受けられるようになりました。

これにより、ファミサポを一度利用してみようという方の入会もありましたが、まだまだ周知されていないのが現状です。実働提供会員の数も満足いく数字ではないので、来年度も引き続き、広報や勧誘に力を注いでいきたいと思います。また、活動の悩みや解決法などを共有できる懇談会や、スキルアップのための懇談会などを引き続き開催し、提供会員が安心してサポートが行えるように寄り添っていきたいと考えています。

● **美馬ファミリー・サポート・センター（美馬市・つるぎ町）**

行政からの利用補助交付金が始まり、継続的な活動に繋がっています。

特に、きょうだい同時託児の場合、二人目以降無料になり、依頼会員は一人分の支払いのみ。提供会員は、一人ずつ預かり子どもにじっくりと向き合うことができます。

双方にとってとても良い結果に繋がり、より安全・安心なファミサポ活動が可能になりました。引き続き、既存提供会員の発掘・新規会員獲得に向けての広報活動にも力を入れていきます。

● **阿波市ファミリー・サポート・センター（阿波市）**

2025 年度は、阿波市ファミサポ開設 15 周年となります。提供会員と両方会員の同窓会を実施して日ごろの感謝を伝え、改めてファミサポ活動への理解と協力をお願いし、会員の再活動や新たな会員の増加を目指して情報収集と連携をしていきます。また、事業のさらなる周知を目指し、市内の他機関に出向き、出張登録会を増やしていきます。交流会や研修会等については、一人でも多くの会員が参加できるように、開催場所や内容について吟味して実施していきます。

● **かいようファミリー・サポート・センター（海陽町）**

2022 年 7 月より「利用補助制度」が開始し、拠点併設型の利点を活かすことで、通常サポート、病児・病後児預かりサポート依頼ともに年々増加傾向にあります。しかし、それに伴う提供会員・E 会員不足が課題です。困ったときに頼れるファミサポ、断らないファミサポとなるべく、提供会員の確保に努めるとともに、サポート依頼が重なった場合にも対応できるように、拠点以外の地域の預かり場所を確保するべく行政への働きかけに努めます。

● **吉野川市ファミリー・サポート・センター（吉野川市）**

2024 年 4 月からそれぞれの会員に利用補助が始まったこともあり、登録・マッチングの件数は増加しました。拠点内での広報や、地域のイベントでの広報により会員増員に繋がってまいります。会員講習会を土・日に開催する事で、講習会を受講できる人が増加しました。隙間時間を埋めるための活動だけでなく、様々な問題をもつ子育て家庭に心から寄り添える提供会員も増えてきています。提供会員としての悩みや課題など、アドバイザーと共に解決していける仕組み作りをしていきます。

(1) 交流イベントの開催

会員同士の交流や親子の交流、情報交換の場として交流イベントを開催します。**2024年度は提供会員同士の茶話会的なものも実施**され、日ごろのサポートの悩みや提供会員としての喜びなどを共有できる場を持つことが出来ました。2025年度も提供会員に向けての交流会も積極的に開催します。

「あい♥あいファミサポフェスティバル」の開催

2025年度は、あすたむらんどにおいて「こどものまち〜おしごと体験〜」を開催します。

と き：2025年6月14日、15日 11時～14時

ところ：あすたむらんど徳島

(2) 会員講習会

安心してサポートするために必要な技術や知識を習得するための講習会を開催します。従来通り、**年間5回5ヶ所での開催**となり、会員は、いつでも、どこでも何回でも受講できます。また、阿南会場ではzoomを用いてハイブリッド方式で、吉野川市では土曜日に開催することで、**受講しやすい環境**を整えています。

開催地	日程	備考
徳島市	5/16～6/6	
吉野川市	7/26～8/17	土曜日開催
藍住町	9/10～9/29	
阿波市	12/2～12/10	
阿南市	1/30～2/19	zoom 同時開催

(3) ファミサポ機能強化事業の対応

ファミサポの**依頼内容は多様化**してきており、様々な困難を抱えるこどもや家庭に対応できることが求められています。

提供会員の資質向上に向け、アドバイザーと共にレベルアップを図ります。

①病児・病後児預かり研修

引き続き、医療アドバイザーとして徳島県小児医師会・全国病児保育協議会徳島県支部長の田山チャイルドクリニック田山正伸院長に依頼し、**エクストラ会員になるための専門的な講習会を実施**します。

②エクストラ会員（E会員）交流会&研修会

病児・病後児預かり7・5時間研修を修了した**エクストラ会員（E会員）を対象にフォローアップ研修**を開催するとともに、会員間の意見交換会を開催し、スキルアップに努めます。

③アドバイザー等レベルアップ研修

2025年度も資質向上を目指し、計画しています。

- アンコンシャスバイアス（無意識の偏見）・ジェンダーバイアス（性別に関する偏見）**に関する研修会
- 配慮を必要とする子どもの支援**についての研修会

④ファミサポネットワーク連絡会

年2回、各市町村の担当課担当者ファミサポアドバイザーが一同に会し、連携を図ると共に、ファミサポの機能強化や課題について協議し、情報共有を行います。

⑤オンライン登録の推進

出産後、出歩けない親や交通手段のない会員のためにオンラインでの登録を進めます。ホームページ上で、サポートの様子や登録の仕方を動画などで説明し、一目見てわかりやすいように努めます。そのうえで、入力フォームや書類のダウンロードなども可能にし、入会のハードルを下げることで登録しやすい環境を整えます。

(4) ファミサポプラス

今、子育てを取り巻く環境は大きく変化し、サポートの内容也多岐にわたっています。そこで、行政へ向けて、育児支援だけでなく、簡単な**家事も加え「ファミリーまるごと支援」としたファミサポの新たな支援の形**の実施に向けて提案を続けます。

(5) ワンストップサービスの構築

「子育ての問題」は様々な要因が幾層にも重なっており、多方面からの総合的な支援が必要になってきます。そこで、**今まで培ったネットワークや知識、ヒヤリハットなどデータベース化し可視化**する仕組みづくりを強化します。個々の知識や知見を共有することで、組織全体のレベルアップにつながります。

(6) 他事業との連携によるシナジー効果

■ファミサポ会員特典としての「くーぼん丸。会費割引」

ファミサポ会員になることで、通常 770 円の会費が 570 円で利用可能です。

■あわ～ず会員への利用補助

あわ～ず徳島の会員サービスのひとつに「ファミサポ利用補助」があります。2025 年度も引き続き利用促進に向けて働きかけを行います。

(7) 子育て困窮者への支援

① ファミサポ利用支援子育て基金

ファミサポを利用したくても、経済的な理由により利用を控えざるを得ない家庭を支援するために創設した「ファミサポ利用支援子育て基金」です。2024 年度から交通費も補助をすることとなったため、より使いやすくなりました。経済的な理由からファミサポ利用を諦めていた家庭に対して、少しでも子育ての支援の手が届くよう努めてまいります。

② ファミサポ利用補助の実施

2018 年から阿波市では NPO 法人からの寄付により、ファミサポ利用料金が 200 円オフで利用できるようになりました。2 年後美馬市でも同様のサービスが展開されるようになりました。そのような中、2022 年から海陽町では行政の補助が入り、依頼会員のみならず提供会員の補助も始まりました。

現在は、市町村ごとに利用補助内容も異なりますが、財団の委託するすべてのファミサポにおいて利用補助が叶いました。今後できる限り統一できるよう行政当局に提案を続けてまいります。

2. 子ども預かり事業

● ときわプラザこども室

節目となる5年目を迎え、今まで積み重ねてきたものを大切にしながら、新たなものも見出せるよう、利用していただいた方の声をもとにスタッフも同じ目線に立ち、本当に必要なものを形にできるよう努めます。こども室の特性を生かしながら**ファミサポや支援センターと連携をはかり、切れ目ない子育て支援**を目指します。

● 子育てひろば「一時預かり事業」(吉野川市)

託児事業では、保護者に安心して預けてもらうために、託児前に必ず体調等の聞き取りを行い、安全に託児をする事を徹底しています。託児時間内でお迎えにくる事が難しい場合には、ファミサポへの併用を勧め、保護者の負担を軽減していきます。

● 海陽町未就学児預かり事業

2017年度より海陽町において、保育園を卒園する未就学児を対象に春休み預かり事業を実施しています。2025年度も引き続き実施する予定です。

● 出張託児「きらり」

今年度は新たな企業や行政からの依頼がありました。全国大会の研修などでは、大阪や熊本から来県したお子様の託児も担当しました。依頼先からは「安心して研修に参加できた」というフィードバックをいただきました。

2025年度も6回の連続依頼や大きな大会での依頼が予定されています。より良い託児サービスを提供できるよう、努力してまいります。

● 託児付き講習会の実施

ファミサポ講習会や再就職セミナーなどを開催する際の託児に、ファミサポの提供会員に依頼し実施しています。**託児付きの講習会**は、子育て中の母親にも次のステップを踏み出す足掛かりの助けにもなると同時に、提供会員もサポート活動を踏み出すきっかけづくりにもなっています。2025年度も継続して実施します。

3. 地域子育て支援拠点事業

財団では徳島県内5箇所で**地域子育て拠点の運営**をしています。子育て中の家族が気軽に遊びに来れる居場所となり、育児不安の解消につながります。また、ファミサポを併設することで、預かりやすく預けやすい環境を整え、地域で支える子育ての手本となるよう事業を行います。

● 美馬市子育て支援センターみらい(美馬市)

保健センターとの連携強化により、2025年度より**新米パパママ教室でみらいの視察見学が追加**となり、4ヶ月健診の会場がみらいに移動します。

妊婦さんや赤ちゃんが小さいうちから、みらいを知っていただき、次回来所のハードルを下げる事が可能になりました。
「安心して子育てができる。」とっていただけるよう、利用者の声をくみ取りながら環境を整えていきます。

● 海陽町地域子育て支援センターあかね（海陽町）

2024 年度はイベント参加者だけでなく、**日々の来所者が増加傾向**にありました。定期的に利用して下さる方も多く、何度も通いたくなる安心できる場所として活用して頂けると感じます。今後も現状に満足せず、利用者の要望を取り入れながら、イベント企画や施設内環境の整備に取り組みます。また、**敷居の低い相談窓口**として利用者の困り事を拾い取り、ファミサポや行政と連携しながら地域で子どもを育み、子育て期の孤独感や閉塞感の解消に尽力します。

● 阿波子育て支援センターあおぞら（阿波市）

2025年度は、**あおぞら開所5周年の節目の年**となります。**阿波市ファミサポ15周年**と共に**イベントを計画**し、事業のますますの推進を図ります。また、2024年度に実施した、中学生の職場体験を通しての次世代との交流も継続し、若い頃から子どもや子育てに関心を持ってもらえるような機会としていきます。地域の多世代の人たちともつながりを増やして、地域で子育てをサポートできる阿波市を目指します。また、あおぞらへの初めの一歩が踏み出せない親子へのアプローチ方法について検討し、情報提供や広報の方法、イベント内容等に工夫をしていきます。

● 吉野川市子育て支援センターちびっこプラザ（吉野川市）

「**居心地のよい場所作り**」を目指し、利用者からの声を参考にして、需要にかなった行事や相談会などを行うようにしています。妊娠期から足を運んでもらいやすい環境をつくり、継続的に繋がる事で信頼関係を構築していきます。いつ来ても充実した時間を過ごす事が出来るよう、職員全員で情報を共有し、心から寄り添った子育て支援に努めます。

● 徳島市親子ふれあいプラザ（徳島市）

昨年度、親子ふれあいプラザは**プレパパ・プレママ事業**に熱心に取り組んで参りました。参加対象を第2子以降の出産予定者や、プレパパ・プレママ向けのオフ会参加経験者などへ広げ開催しました。育休をとった時のパパの立場でのお話を2回に分けて開催したところ、家事や育児参加の体験談や失敗談で会話が盛り上がりました。参加者同士で悩みを共有し合い、自身の育児に繋げることができ、お話することでリフレッシュもできて好評でした。2025年度は、作業療法士・栄養士・助産師の講師先生をお招きする予定です。出産や子育てをより楽しめる場となるよう「**プレパパ・プレママ**」講座を成長させていきたいと思っています。

● あうんじょ（オンライン交流会）

昨年度は、親子ふれあいプラザにて講座を開催して下さる先生にご協力いただき、**動画を撮影したものをあうん・じょの「見てみ〜」で配信**しました。プラザが遠く遊びに来にくい方やお子さんがまだ小さく外出が難しい方、参加予定だったが体調や都合により不参

加になってしまった方などに好評いただき、各回参加のご予約をいただきました。**今年度は、スタッフの手遊び動画**を予定しており、おうちにいっても支援センターの雰囲気味わえる、支援センターに行きやすくなる雰囲気づくりに努めてまいります。

4. 次世代支援事業

(1) 赤ちゃん授業事業

2024 年度は県の委託事業で三好市王地小学校・吉野川市鴨島第一中学校・阿波高等学校・徳島文理大学で実施しました。助産師による命の授業の講義と生徒らが模擬体験をし、最後に実際の赤ちゃんに触れ合うことのできる三部構成でプログラムし、高校生と大学生には避妊具についての説明も併せて行いました。2025 年度も引き続きエントリーしたいと考えています。

阿南市においては、毎年三校ずつの実施となっており、**2025 年度も計画**しています。また、**美馬市においてもプチ赤ちゃん授業として「ふれあいデー」を実施**しており、引き続き計画しています。鳴門市では**赤ちゃん授業実行員会のメンバーとして運営**に関わっており、次年度に向けて計画しています。

父親も一緒に授業に参加し、夫婦ともに子育てをしている現状や**男性が育児休業を取得することが当たり前になる社会**になるような学生の時からの働きかけを行います。



2024.6.20 阿南中での赤ちゃん授業



Ⅲ．ライフサポート



1. とくしまマリッジサポートセンター



(1) 結婚サポートのより一層の充実に向けて

マリッサとくしまは、2026 年に開設 10 周年を迎えます。10 周年記念キャンペーン、記念イベントを通じて、次の 10 年へ向けた取り組みを進めます。ますます深刻化する少子化、未婚化、晩婚化、時代の変化にともない、たえず会員のニーズに応えること、そのために可能な限り会員拡大に努めること、そのことが、カップリング数、成婚者数の増加に結びつくよう努力します。また、カップルをサポートする阿波の縁むすびサポーターの地域単位での組織化、会員の利便性を高める営業時間の検討、また、応援・協賛企業・市町村との連携をはかりやすい勤務シフトの検討など、引き続きサービス向上に向けた取り組みに努めます。

2025 年 1 月末時点での実績

- ・マッチング会員数：735 人 ・マッチングカップル成立組数：179 組
- ・イベントユーザー会員数：3,678 人 ・イベントカップル成立組数：129 組 ・成婚組数：179 組

(2) サポーターの拡大と育成

「阿波の縁むすびサポーター」は、マッチングやイベント時の立ち会い及び交際フォロー等をボランティアで行っています。しかし、サポーターの数、スキルなどの課題から、イベントや交際フォローなど、本来サポーターが行う役割の一部を職員が担っているのが実情です。ただ、2024 年度は新しい取り組みとして、サポーター主導によるイベントの企画・運営、主体的な広報活動の実施等、徐々に活動の幅を拡大しています。

2025 年度も、実働できるサポーターの募集及び登録に組み、拡大に努めます。また、サポーター育成のために、スキルアップのための研修会の開催や、サポーター間の交流を促進し、課題や改善点、優良事例等を共有するため、交流会を開催し、サポーターの育成に努め、サービス全体の向上と、職員の負担軽減に努めます。

2025 年 1 月末時点での実績

- ・阿波の縁むすびサポーター数：102 名

(3) 自治体と応援・協賛企業・団体による連携（結婚支援ネットワーク会議の開催）

「自治体の（婚活）担当者」と「マリッサ応援企業・団体」「マリッサ協賛企業・団体」の 3 者が参加する「結婚支援ネットワーク会議」を 2025 年度も開催します。アフターコロナ社会、そして未曾有の少子化、深刻化する人口減少社会、生活スタイルはもとより価値観も大きく変わってきています。結婚支援のあり方もそれぞれの立場で変化があり、徳島県の各市町村も、この結婚サポート事業を少子化対策、過疎化対策、地域活性化策などとしてとらえ、マリッサの仕組みを活用した取り組みへと徐々にシフトしていくような方向で協議されています。2025 年度も徳島の地域社会全体で結婚支援を協議する場の提供をマリッサが担ってまいります。

また、結婚支援コンシェルジュが中心となって、県内市町村及び企業・団体との連携強化を図ります。2024 年度の実績として、各市町村と徳島県との三者コラボイベントの実施市町村数は 7 市町村（1 月末時点）、市町村とマリッサとくしまの二者コラボイベントの実施市町村は 2 市町村（1 月末時点）、マッチング会員の会費補助をしている市町村は 8 市町村となっ

ており徐々に結婚支援の拡がりを感じている。2025 年度も引き続き、連携イベントの開催、訪問等による現状把握・相談受付、各種情報共有、結婚支援事業未実施団体への働きかけ等を行うとともに、技術面・情報面から支援を行います。

(4) マリッサとくしま事業推進連携会議の開催

「マリッサとくしま事業推進連携会議」は、委託元の徳島県と、勤労者福祉ネットワーク（マリッサとくしま）が知恵を出し合い、結婚支援事業の拡充と実績の向上に向け、また、県と財団の連携を軸にスムーズに運営できるよう努力することを目的とし、2018 年より、年 1～2 回のペースで開催してまいりました。2025 年も開催し、**サポーターの組織化や営業時間の見直しなど、積み残された課題について協議**します。

(5) とくしまマリッジサポートセンター連絡協議会の開催

「とくしまマリッジサポートセンター連絡協議会」は、**経営者団体、行政機関、労働団体、労働者福祉事業団体、婚活支援団体**等により構成され、とくしまマリッジサポートセンター（マリッサとくしま）の運営及び支援について、また、徳島県における結婚支援活動のさらなる推進を図ることを目的とした協議会です。2025 年度も開催し、**大きな方向性を共有し、構成団体と連携しながら事業を推進**します。

(6) その他

2025 年度も、何でも相談会、出張登録・閲覧会、サポーター研修会、各種セミナー、異業種交流イベント「マリッサークル」の開催など、昨年度に続き積極的に取り組んでまいります。

2. つながり文化交流室

2025 年度の重点課題のひとつである「**外国人が日本一活躍する”多文化共生社会の徳島創造”**」に向けたユニバーサルカフェつながりの事業拡大を目指します。

新たに設置した「**運営委員会**」で、事業の方向性を協議し、合意に基づく事業運営を図り、**2025 年度中の交流拠点「つながりカフェ」の開設をめざします**。各種の関係機関と連携し、**国際子ども食堂の運営**や日本語教室の開催などを実施しながら、気軽に立ち寄り相談もできる総合窓口として事業を展開いたします。





3. 子育て支援員研修

地域の子育て支援の“量の拡充”や“質の向上”を進めるための「子ども・子育て支援新制度」が2015年4月に本格スタートし、その担い手となる人材の確保のために「子育て支援員研修」が実施されることとなりました。財団では、2015年の開始当初から徳島県の委託事業として運営してきました。2019年度には、55歳以上のシニアを対象に「アクティブシニアコース」も開催し、介護分野に加えて新たに子育て分野においても元気なシニアの活躍の一端を担っています。2025年度も引き続きエントリーし、受講生にとって更に有意義な研修になるよう努めます。

4. 保育士等キャリアアップ研修

近年、子どもや子育てを取り巻く環境が変化し、保育所等に求められる役割も多様化・複雑化する中で、**保育士にはより高度な専門性が求められるようになっていきます**。現在、保育現場では、園長や主任保育士等の下で、職務内容に応じた専門性の向上を図ることが重要となっており、職員のキャリアパスを見据えた職位の整備などが重要となっています。これらの課題に取り組むため、県では2017年度より保育士等キャリアアップ研修を実施してきましたが、2021年度より公募型プロポーザル方式となりエントリーして受託しました。**毎年、約1,200名の受講者が主にオンラインで受講し、グループワークや実技も実施しました。**2025年度も続き受託できるよう準備を進めています。

5. 女性の活躍推進事業

2015年度から徳島県・徳島市より委託を受け開催してきました。2024年度は徳島市のみの委託となり、**ヒューマンスキルアップと実務に役立つパソコン講座を融合させ、充実した内容で企画運営を行いました。**2025年度も工夫を凝らし、講座の運営だけでなく就職に向けた寄り添い型の支援を行います。

6. コミュニティビジネスセミナー

2015年に徳島市の委託事業でスタートした「コミュニティビジネスセミナー」も11回目を迎えます。地域の課題解決のために企業を考える人やコミュニティビジネスに興味を持っている人を対象に開催しています。**県内の先駆者を講師に招き、先進事例を学ぶとともに、ワークショップの手法で参加者の起業に向けてのビジョンの明確化や、志を同じくするもの同士の仲間づくりの場としての一面もあります。**2021年度から取り入れたグラフィックレコーディングによる可視化も大変好評で、2025年度も引き続き実施に向け準備を進めてまいります。

7. 人生後半戦をどう生きるか？～遺贈寄付・終活・おひとりさまの未来を考える～

人生100年時代を迎え、「どう生きるか？」という問いは、より多くの人にとって重要なテーマとなっています。特に**50代以降の「人生後半戦」を充実させるためには、経済・健康・つながりの視点が欠かせません。**このイベントは、**遺贈寄付・終活・おひとりさまの生き方をテーマに、専門家をういたトークセッション**です。参加者が「未来に何を残し、どう生きるか」を考え、自分に合った選択をするためのヒントを得られる場を提供します。

→ 2025年5月10日（土）於：ろうきんホール 開催予定

8. ハートフルゆめ基金とくしま

ハートフルゆめ基金とくしまは、地域の課題に向けて取り組む NPO 等を応援するために設立され、**2024年に10周年**を迎えました。そこで、10周年記念交流会を実施し、今までの軌跡とこれからの目標を県内外の NPO 等や支援団体と共有し、連携を深めます。

また、今後ハートフルゆめ基金とくしまが、地域の NPO 等とともに社会課題に取り組み持続可能な活動に支援できるよう、より一層の研鑽に努めます。

ハートフルゆめ基金とくしまは、「**運営委員会**」で、事業の方向性を協議し、合意に基づき事業運営を行っています。

(1) ハートフルゆめ基金とくしま10周年記念事業

ハートフルゆめ基金とくしまも10周年を迎えました。そこで、**10周年記念事業**を次のとおり計画します。

① 10周年記念交流会

今まで助成した NPO 等の団体や関係者が集い、**徳島の未来について考える対話型の交流会**を計画します。地域の課題について話し合い、その課題解決に向けて共に歩んでいける関係づくりの強化をめざします。→**2025年7月26日(土)開催予定**

② リーフレットの作成

冠基金だけでなく、ハートフルゆめ基金とくしまの**あゆみや活動**も知っていただくための**幅広いリーフレット**を作成します。より多くの方にハートフルゆめ基金とくしまを知っていただき事業の幅を広げていきたいと考えています。

(2) 第4回ハートフル社会貢献基金

2020年度、2021年度に「新型コロナウイルス対策緊急支援」から始まった「ハートフル社会貢献基金」を活用した助成は、2022年度に「**ハートフル社会貢献基金**」として**地域課題解決に向けて頑張っている団体に対して3回の助成**を行ってきました。2025年度も5月募集に向けて準備を進めていきます。

(3) 全国コミュニティ財団協会との連携

2023年度に加盟した全国コミュニティ財団協会は、市民の主体的な地域社会の課題解決を促し持続可能性を高め、公共の利益を増進することを目的としており、財団事業の主旨にも合致しています。全国コミュニティ財団協会が開催するセミナーへの参加や全国の**他のコミュニティ財団**とも積極的に交流し、研鑽することで、本事業の充実をめざします。

(4) 遺贈寄付の充実

2022年度に「全国レガシーギフト協会」に加盟し、2023年度は講師を招き研修を実施しました。遺贈寄付は故人の最後の想いを届ける大切な仕組みです。制度とそれに伴う規制などの知識を持ち、関係 NPO や土業とのネットワークを活用することで、**遺贈寄付の相談窓口として機能**できるよう準備を進めていきます。

2025年度には **NPO 法人 ALIVE LAB** と「**遺贈寄付に関する連携協定**」を締結し、遺贈寄付に関するセミナーや交流会を共催で開催します。

（５）休眠預金の活用

休眠預金とは「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律（休眠預金等活用法）」に基づき、２００９年１月１日以降の取引から１０年以上、その後の取引のない預金等（休眠預金等）を社会課題の解決や民間公益活動の促進のために活用する制度が２０１９年度から始まりました。

財団としては**四国四県でコンソーシアム（共同企業体）**を組んで資金分配団体（休眠預金等に係る資金を原資として、実行団体に対し助成・出資を行う団体）として**エントリーするために準備を進めて**いきます。

（６）円卓フォーラムの開催

テーマを定めて、そのテーマに関心のある NPO や市民活動団体、一般市民などに広く周知し、年１回若しくは必要に応じて、地域課題解決に向けた対話の場として開催します。

（７）寄付をしやすいシステムの活用

①くーぼん丸。

くーぼん丸。冊子とアプリで寄付つき広告を募集し、その１／２を「ハートフル社会貢献基金」として充当しています。「くーぼん丸。２０２４」では**１４団体から寄付がありました**。また、アプリでは随時広告ができることから、更なる寄付募集に努めます。

②ファミサポ

各ファミサポでは**リユースの持ち帰りやイベントの際に募金箱を設置**して寄付を募っています。美馬市子育て支援センターみらいでは、仕掛け貯金箱を設置するなど、楽しみながら寄付ができる仕組みを作るなど工夫を凝らしています。他のファミサポやひろばでも広げていきたいと考えます。

③エシカル消費を通じた寄付

阿波市で始まった共助共生の仕組みが他市町村でも行政からの補助開始に繋がりました。美馬市においては残金を市の補助金に繰り入れ今後の助成に充てることとなりました。**阿波市においては行政の補助は提供会員のみで、依頼会員への補助はありません。今まで通り NPO からの寄付を活用し、利用者全員がワンコインで利用できるように補助を行います**。

④マンスリー寄付やインターネットバンキングを利用した寄付のシステム作り

Syncable の審査が通り、運用を開始しました。課題であった ５%の手数料も概ね利用者が負担してくれています。今後は、**クレジット決済やマンスリー寄付が可能となるため、一層の周知に努めます**。

⑤ボランティア活動

ボランティア活動は支援の一つの形です。財団や助成対象団体でのボランティアを通じて、その活動の支援者になることで、財団事業への理解を深めてもらい、寄付へと繋げてまいります。

（８）人材育成

複数体制で担当することとし、NPO などに向けて丁寧で継続性のある運営に努めます。また研修などに積極的に参加し、担当者のスキルアップに努めます。

8. くーぽん丸。(収益事業1)



(1) くーぽん情報の充実

ここ数年、物価高騰や賃金の底上げなどの影響が長引き、閉店やサービスの廃止をする店舗が増えたことにより、掲載店舗数が減少しています。再度、新規店舗や過去に掲載していた店舗などに呼びかけ、店舗拡大に向けて鋭意努力します。

(2) あんしん情報サイトの充実

くーぽん丸。の2本柱（「割引くーぽん」と「あんしん情報」）の一つである「あんしん情報」について、ニーズに合わせた最新の情報にアクセスできる「あんしん情報」をめざして新たな情報の提供に努めます。

(3) スマホアプリの充実

2021年度に徳島市の「令和3年度版徳島市コロナ危機突破プロジェクト創造支援基金」の採択を受けアプリ化の実現が叶いました。アプリ化により「売り手よし、買い手よし、世間よし、未来よし」の「四方よし」を目標に、商店の活性化と消費者の可処分所得の増加、生活の安心の提供、作る責任として限りある資源を大切にすること、企業も、消費者も、社会も、未来もみんなが幸せになれる社会の実現に向けて新たな一歩を踏み出しました。開始から約25,000ダウンロードを達成し、今後は徐々にアプリへの移行を増やしていきたいと考えています。そのために、今後も、技術的、財政的な課題に対処しながら、魅力的な運営になるよう努めます。

(4) 寄付つき広告

2018年度版からスタートした「寄付つき広告（広告料の50%をハートフル社会貢献基金に寄付）」も2025年度版で8回目となります。2022年度からは冊子とアプリ両方での広告も可能になりました。そのことにより、年間を通じて広告を受けることが可能です。今後引き続き、県内の「社会貢献活動」に関連性のある企業・団体も対象に、寄付の協力を要請します。

(5) くーぽん丸。商標登録

2013年8月30日より、「くーぽん丸。」の名称及びロゴは商標登録され、名実ともにイメージキャラクターとなりました。2024年には更新登録も行ったことから、今後も当財団のイメージキャラクターとして活用していきます。

(6) くーぽん丸。の多言語表示

少子高齢化、労働力人口の減少に伴い、外国人との共生も地域社会における大きな課題のひとつです。「くーぽん丸。」は私たち財団の事業の中でも特に生活に密着した事業です。2019年度版からスタートした「くーぽん丸。」の多言語表記（中国語と英語）を2025年度版でも引き続き実施します。今後は更なる言語の追加についても検討してまいります。

(7) 他事業との連携策の構築について

本誌やアプリ、ホームページ、SNS などを通じて「あわ～ず徳島」や「ハートフルゆめ基金とくしま」、「ファミリー・サポート・センター」、「マリッサとくしま」などの情報、イベントなどを積極的に配信し、4万人強の会員にアクションできる機能をフルに活かし、財団の広報はもとより、他事業との積極的な連携をはかります。

(8) SNS の活用

これまで、公式 LINE やアプリ内お知らせで情報を発信してきましたが、時代の変化に伴い、くーぽん丸。でも新たに Instagram を開設しました。今後は店舗情報からのお知らせや店舗のお得な情報、あんしん情報などについて、SNS も活用したタイムリーで積極的な情報発信に努めます。

(9) くーぽん丸。20周年

2025年度版は「くーぽん丸。」の20周年記念号となります。そこで、20周年記念事業として次の内容を計画しています。

① 20周年記念イベントの開催

2025年6月に実施する「あい♡あいファミサポフェスティバル」にくーぽん丸。ブースを出展します。くーぽん丸。に関連した「お仕事体験」を実施し、着ぐるみとの写真撮影なども盛り込んだ楽しい企画を検討中です。

② 20周年記念企画

くーぽん丸。2025年度版において「20周年特別企画」を計画しています。新たに始めた Instagram を活用し、#くーぽん丸。(ハッシュタグ)をつけて投稿していただいた方にプレゼントを準備しています。冊子、アプリ両会員が参加できるよう広報について工夫を行いながら実施します。



IV 総務部門

1. 総合相談ダイヤル

2024 年度から、①『心の健康・相談室フォー・ユー』に、②『働き方なんでも相談室』と③『ユニバーサルカフェ（つながり）外国人相談室』を加え、総合相談ダイヤルとして相談事業を開始しています。財団機関誌での広報に加え、徳島新聞の情報とくしま掲載等で、より広く広報を図り、公的機関や専門家との連携で、相談者に寄り添える相談窓口をめざします。

2. 賃貸事業（収益事業2）

当財団が所有する徳島県労働福祉会館に併設する土地を**駐車場**として賃貸しています。引き続き財産管理の安定した運営につとめることとします。

3. 指定管理事業（収益事業3）

2024 年度は**燃料・電力等諸経費の高騰**に伴い両施設とも料金の改定を余儀なくされましたが入場者数、利用者数等とも**前年を若干下回る程度の減少**にとどまりました。

2025 年度も、諸物価の値上がりに歯止めがかかる気配もなく、また日本各地の地震の発生が続き、南海トラフ巨大地震の発災不安と予断を許さない状況ですが、両施設が「いつでも、どこでも、だれでも」が利用できる「**多世代交流の場**」として、いろんな世代の人々が集い交流できる三好市の一つの拠点として定着できるよう引き続き努めます。

また、2 施設の利点を活かしつつ、連携しあうことでコストの削減、人的作業効率のアップを図ります。

（1）健康とふれあいの森

健康とふれあいの森においては、**夏以降の猛暑の継続、秋が短く寒気団の停滞等**の影響で、**公園訪問者数の毎年の月平均 1,800 人弱が 1,500 人と数字に表れています**。但し、天候に左右される面は致し方ないとしても、なお一層の知名度の向上とともに親しまれる施設を目指してまいります。

体験型イベントの企画及び開催

コロナ以前に好評を得た**星空観望会、炭焼き体験**など**野外体験型のイベント**を企画・開催します。**体育会系運動部合宿所としてバンガローのピーアール**。また、**環境を生かした「テントサイドデッキ」**を従来以上にアピールしリピーターを増やしていきたいと思います。

(2) 三好市ふれあい紅葉センター

紅葉温泉においては「くーぼん丸。」あわーず徳島「とくとく券」「JAF」のサービスご利用者が順調に増加し、また、入湯料金もそれぞれ 100 円程度のアップをいたしました。当財団指定管理開始以降最高であった昨年に対し約 3 パーセント減の毎月平均 4,600 人近くのご利用を頂いております。

但し、引き続き各種燃料費諸経費、人件費の増加による影響は大きく、一人あたりの経費は指定管理の開始年度に比べ 30 パーセント強増加しています。

① 優待サービスの拡充

従来からの優待サービスに加え、さまざまな「温泉・レジャーサイト」へホームページの情報提供を拡大、地域、世代を問わず全国的な知名度のアップと新規顧客の獲得をめざします。

② 近隣施設との連携

「健康とふれあいの森」とともに、近接の「三野ふれあい広場」キャンプ場とサービス連携をはかってまいります。

③ 2階宴会場の活用再開

コロナ以前のように2階においての個別宴会あるいは各種演芸の集い、また施設内広場における「発動機運転会」等のイベントを企画・再開催致します。

(3) 両施設共通

① 安心安全な運営

両施設とも、従来通り 安心・安全な運営に努めます。

② 三好市三野町に生誕の地 戦国天下人・三好長慶

「戦国天下人・三好長慶を NHK 大河ドラマに！」協議会構成団体として、両施設とも三好長慶だけでなく、徳島県の実情や歴史文化などを発信し、文化・観光振興、地域経済の活性化を応援してまいります。



2024.11.3 三好市での三好長慶公武者行列まつりに「徳島県勤労者ネットワーク隊」として参加
勝間を上げるあわーず職員



2025.3.1 大阪府大東市での三好長慶公武者行列まつりに「徳島県勤労者ネットワーク隊」として参加